

羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

COMPASS

第 127 号 2018.3.10(土)発行

関西外国語大学
教職教育センター

SCET

「今春、新任教員になれるみなさんへ！」

短期大学部 教授 明石一郎

教員採用試験に合格し、今春から教員になれるみなさん！おめでとうございます。この春、子どもたちや保護者、学校の教職員の方々との新しい出会いが待っていますね。何事もはじめが肝心です。春までの間に教師になる自覚を一層高め、素敵な出会いのスタートをきってほしいと願っています。

ところで、日本の国語教育を牽引してきた大村はまさんは、《教師のあるべき姿と子ども》について次のように述べています。

「教師たる自分は、最高の自分でなければならない。教師というものは勉強しなくてはならない。研究することは「せんせい」の資格である。

子どもとは、『身の程知らずに伸びたい人』のこと、一歩でも前進したくてたまらない。力をつけたくて、希望に燃えている、その塊がこどもである」

※「教えるということ」共文社 大村 はま（1906年 - 2005年）。

保護者の子どもへの共通の思いは、「元気で、かしこく、やさしく、人に迷惑かけずに、大きくなって食いはぐれのないこと」です。子どもの自己実現と社会貢献、そして、将来の経済的自立を望んでいます。

「教員に関する意識調査」（横浜市教育委員会 2012年）によれば、保護者が望んでいることの中で、最も多いのは「教育への責任感や使命感」（68.7%）、次いで「非行やいじめなどの問題行動への適切な対応」（58.0%）、「社会人としての一般常識」（50.8%）、「公正・適正な評価・評定」（49.7%）、「授業力や教科などの専門知識」（45.7%）などの順になっています。

意外にも保護者が教員の専門知識に期待する割合は50%以下で、それよりも責任感や使命感、一般常識など、大人のお手本として、子どもたちを指導してほしいというのが保護者の本音のようです。

ほとんどの教員は、大学などを卒業後、新任教員になるか、非常勤講師を経て採用さ

れた人が大多数です。ある意味、学校という職場しか知らないで、世の中の「常識」とかい離する傾向もあります。20歳代で「先生、先生」と呼ばれ、知らないうちに謙虚さを失い「独善」や「傲慢」が芽生えやすい職業でもあります。

教育職は、子どもの「命」に向き合い、日々の成長を促す崇高な職業です。常に謙虚で誠実であってほしいと願います。そのためには、「日々初心」の構えで子どもや保護者、教職員と接し、信頼的人間関係を築くことが大切です。どの子どもも「私は、〇〇先生が大好き！」と言ってくれる、そんな素敵な先生になってほしいと願っています。

～羅針盤 127号 目次～

お祝いの言葉「卒業・進級おめでとう」	… 2～8頁
☆学生人材バンク活動報告☆	… 8～10頁
編集後記	… 10頁

お祝いの言葉「卒業・進級おめでとう」

教職にかかわる先生方より、臆のお言葉をいただきました。今日のハレの日、じっくり読んでみてください。

羅針盤 卒業号

教職教育センター所長 角野茂樹

4回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

私たち教職員にとっても、皆さんが巣立っていくことに感慨深いこの春を迎えています。

2014年、1回生の時に「教職概論」で出会った志し高き青年たち、2回生の「教育制度概論」で教育制度の現実と矛盾に葛藤し、3回生の「生徒指導論」で児童生徒が直面する教育問題に向き合いグループで白熱議論をしたことを思い出します。また、夜スペシャルで教育時事に真摯に向き合い自らの解を求めている姿、さらには教採合宿で、先輩教員にサポートされ教員としての意欲を高め、夏のサマースペシャルでは、堂々と模擬授業を披露していた姿はたくましく映っていました。そして教職実践演習、最後の授業、どれも昨日のことのように覚えています。

教職の世界に飛び込んでいく皆さんにとっては、これまでの経験や学びの成果をもって学校現場という生身の児童生徒と向き合う場で「職業」として実践していくことにな

ります。きっと喜びと不安が入り混じりながらも、やる気に燃えていることでしょう。

今、学校現場では、使命感と情熱にあふれる若い教師が児童生徒に寄り添い、愛情いっぱい教育をと、皆さんに対する期待が大きいです。教材研究をしっかりと授業に向き合い生徒の持てるチカラと自らの指導力を引き出してください。日々の積み重ねが少しずつ教師としての力量を高めていくことになるでしょう。

教育の世界に「変容する」という言葉があります。この言葉の意味は、教師の熱のこもった継続的な指導が「子どもの内面に変化」をもたらし、「子ども自らが自律しようとする姿」を表現するということです。その時、教師は指導者となります。

2018年4月2日は、教師になる目的を実現しようとするスタートの日です。どんな教師になるのか、教師になって何をしたいのかを今一度思い起こし、自らの教師人生のロードマップを描き自己実現へとひたすら走り続けてください。



The great teacher inspires.

ひとつのこと
斎藤喜博

いま終わる ひとつのこと
いま越える ひとつの山

風渡る 草原
響き合う 心の歌

桑の海 光る雲
人は続き 道は続く
遠い道 はるかな道

あす登る 山も見定め
いま終わる ひとつのこと
いま終わる ひとつのこと

「自分らしく学び続けること」

英語キャリア学部 教授 浦嶋敏之

みなさん、ご卒業おめでとうございます！

「大学生活で学んだこと」と聞かれて1番に思い浮かぶことは何でしょうか？専門知識、国際感覚、コミュニケーション力…等、それぞれ学位授与にふさわしい様々な成果を修めたことと思います。併せて、教職へチャレンジする中でも多くのことを学んだと思います。

私は、1年という短いかわりでしたが、この間、大きく成長するみなさんの姿を目の当たりにさせていただきました。教育実習で「何とか上手に授業をしたい。」という“意識”が、「何とかあの子に分かってもらえる授業をしたい。」という子どもへの“思い”

に変わっていく姿がありました。また、志を同じくする者同士が、採用試験に向けて切磋琢磨する中で、自分の殻から解き放たれて、仲間との絆を深めていく姿もありました。短期間でこんなに成長するものかと、あらためてみなさんの未来への可能性を感じました。

本気で取り組んだ経験は、人（先生）として、すべてみなさんの宝となります。この宝は、これからも自分らしく学び続けるエネルギーになります。

今日は、まず、ご家族をはじめ、これまで支えていただいた方々へ感謝の気持ちを伝えてください。そして、新たな決意を胸に、未来へのスタートの日としてください。

“GO FOR it!”

目の前の風景

短期大学部 准教授 堅田 利明

桜の蕾が膨らむこの季節、皆さんはどんな思いで過ごされているでしょうか。希望する進路にまっすぐ進んでいける人は喜びがひとしおでしょう。一方で、願わぬ方向に舵取りを余儀なくされる人もいます。これから始まる新たな環境に期待感を膨らませている人、不安感にさいなまれている人。平等に与えられているこの季節のもとで、いくつもの感慨が渦巻いています。

進路の途上には、有意義だと感じられる学びに多数出遭います。「これって当たり前でしょ」「普通はこうでしょ」とこれまで考えてきた価値観が大きく揺らぎ、その変容を迫られることがあります。事実を知ることのつらさや、苦しみを伴う学びもあります。想像を絶するような背景を持つ人との出会いや様々な価値観に触れながら、変えることができるもの、すぐには変えることが難しいものがあることに気づかされるでしょう。その経験は、やがて成長には欠かせない必然の出遭いとなるはずです。

最後に。人からしてもらって嬉しいと感じることをどうか実行してみてください。それは言葉かけでも良いです。1日1つで構いません。人に喜んでもらえることは自分への喜びへと換わります。それは力の源になります。どうかご自身に優しくいてあげてください。

新たな進路を祝して。

卒業生の方々へ

外国語学部 准教授 川村 悟

ご卒業、おめでとうございます。それぞれの進路に向けた活動を通じて、きっと忙しく過ごされたことと思います。卒業を無事迎え、ほっとされた方々も多いのではないのでしょうか。

みなさんは教育実習という貴重な経験を積みました。初めて教壇に立った際、これまでにない緊張を感じた方も多かったことと思います。普段、学生の立場で授業を受けることが多いみなさんですが、教壇に立つと同じ教室でも目に映る風景はまったく異なっただけです。多くの生徒の視線が自分に注がれるというのは、教員ならではの希少な経験かと思えます。

そのような緊張感のなか、実習初日は思うように授業を進められないと感じた方も、終盤は試行錯誤しながら乗り切ったのではないのでしょうか。卒業後、社会人として教育実習のようにプレッシャーを感じる場面もこれから数多く経験されるかと思えます。そのような時には、自分が教育実習の際にどのように取り組んだのか、初心にかえって思いだしてみるのもよいかもかもしれません。みなさんの今後のご活躍を期待しています。

4月から教壇に立つ皆さんへ

どういふ人生を生きていくかが大事！焦らず、慌てず、諦めず・・・

英語キャリア学部 教授 新坊 昌弘

今日、卒業の日を迎えられた皆さん、おめでとうございます。

そして、1年近くに及ぶ教員採用試験に向けての闘い、お疲れ様でした。

夢を叶えられた人も、残念だった人も、4月から教壇に立つ人は皆、これからが本当の闘いです。教諭であろうが講師であろうが、児童・生徒にとっては同じ「先生」です。一社会人として世間から「教員」と呼ばれる立場になります。一定の責任を背負い、世間の厳しい目に晒されるのです。日々、翌日の授業の準備に追われ、また様々な課題に対峙する中で、全ての時間は仕事に奪われていくことでしょう。

この2月、私達をテレビの前に釘付けにした平昌五輪。長い苦難の日々を過ごし、国民の期待という重圧に耐え、感動を与えてくれた選手達の口から発せられる言葉には、それぞれに重みと輝きがあり、それはまた教職に就く皆さんにも通じるものがありました。

ソチ五輪で、世界中の期待を一身に背負い、その重圧に耐えきれず4位に終わった高梨沙羅選手は、女子ノーマルヒルで見事銅メダルに輝きました。彼女はこの4年間、あのソチ五輪での敗退の悪夢に苦しめられながらも、自分自身に「焦らず、慌てず、諦めず」と言い聞かせてきたそうです。私も、これから教職に就く皆さんに「焦らず、慌てず、諦めず」という言葉を贈ります。

4月から教壇に立つ皆さんは、今、不安でいっぱいのことと思います。でも、授業を含め仕事に対する不安や恐れは、時間が解決してくれます。日々積み重ねられる経験が、いつの間にかそれらを薄めてくれます。「焦らず」一つ一つ乗り越えていきましょう。

日々目にする先輩教員の授業や指導は的確で上手に見えます。早くあのようにになりたい、と思うことでしょう。しかし、先輩教員らは誰一人今の自分の授業や指導に満足していません。より良い授業や指導を、どの先生もが追い求め続けているのです。「慌てず」

に誠実に児童・生徒に向き合い続けましょう。

長い教職の道のりは、いつも平坦とは限りません。いつも好天に恵まれているとは限りません。大きな困難や壁に直面し、ある時は打ちのめされ、ある時は無力感に襲われ途方に暮れることもあります。しかし、皆、そんな道のを辿ってきたのです。そして、誰もが通り過ぎた後に「あれで良かったのか・・・？」と振り返ります。そんな道のを皆さんも「諦めず」歩み通して下さい。

最後に、スピードスケート女子 500mで金メダルに輝いた小平奈緒選手は、受賞後のインタビューにこう答えました。

「確かに金メダルを頂いたことは名誉ですが、これからどういう人生を生きていくかが大事だと思います。」

教員採用試験に合格した人も、今年再挑戦する人も、教諭という職名を手にすることが大切なわけではありません。教員としてどういう人生を生きていくのが大切です。

Go for it!

卒業生の教職への意志を称えて

英語キャリア学部 教授 塚田泰彦

卒業の日を迎え、新たに漲ってくる教職への意志を今はまだいっくらか持て余しているかもしれません。これは、4月からの教職の準備で忙しい日常生活にふと訪れた幸せな猶予の時間です。不安もどこかに消えていくこの時間を大切にしてください。

「教育」という概念にはもともと「未来」が前提としてまた目標として組み込まれています。そしてこの「未来」という概念にはさらに「希望」が前提としてまた目標として含まれています。しかし、この「教育」と「未来」と「希望」を一つにして実現していくにはこれにかかわる一人一人の「形成的自覚」と誠実な努力が必要です。とくに教職はその最前線でこの生きた時間を支えています。教職に就くみなさんが、関係者の方々との思いを一つにして、希望をもって未来を拓く教育を実現する仕事をしっかりと担ってくれることを期待しています。

在学中の教職希望の皆さんも、こうした思いのもとで、残された就学期間を自分にとって悔いの残らないものしてくれることを願っています。

輝くあなたに

英語キャリア学部 教授 馬場 勝

4月から社会人として歩まれる皆さん、自分らしさを失わず、微細でもいいですから、あなたの光を放ち続ける人になってください。同じ職場で明るく光り輝いている人に出会うと、何とも羨ましく、自分の光の貧弱さに気持ちが滅入りそうになることがあるか

もしれません。そんな時他人と比べることを止め、自分らしく発色させよう、灯し続けようという意識をもって、地道に歩いていってください。

さて、自らの光を放ち続けていくためには、自分磨きが欠かせません。仕事に関わること、人間としてさらに幅を広げていくことを、コツコツ地道に磨き続けてください。それが自信となって、あなたの光は、きっと少しずつ輝きを増していくことでしょう。しかも他人の光を邪魔しない、そんな奥ゆかしい輝きを放つようになることでしょう。

3年後、5年後、そして10年後、皆さんはどんな光を放っているのでしょうか。あなたらしく輝かれることを楽しみにしています。ご卒業おめでとうございます。

出会い、成長、感謝

短期大学部 教授 藤林富郎

毎年新しい学生の皆さん（そして、職場の皆さん）に出会い、その出会いから多くを学び、お互いに成長し、そして、感謝し合う。これが、この約40年間の教育現場での幸せな職業人としての人生です。そして、許される限り、これからも続けていきたいと願っています。

ご卒業、ご進級、おめでとうございます。（卒業、進級されない方も、新年度を迎え、おめでとうございます。）春は、はじまりの季節ですが、皆さんはどんな人生をスタートさせられるのでしょうか？私は、関西外大短期大学部で今年も多くの新入学生を迎え、ご縁のある（出会える）学生諸君に、伴走する予定です。そう、皆さんの後輩たちとも。

皆さんは、これからもさまざまな悩みを抱え大小いろいろな問題に直面し、それでも、希望を胸に、進んでいかれることでしょう。「過去は自信、未来は希望、現在は勇気」と、我が尊敬するA先生がいつも言われるように、外大での学生生活は皆さんの多くにとって今や過去に、そして、すべての皆さんの自信になり、これからの皆さんの人生を支えてくれることでしょう。

「人生100年」と、言われるようになった21世紀、それだけいっぱい学ぶ時間がある、と思うと、楽しいし、また、たいへん、でもやっぱりうれしい。目の前の現実に勇気をもって挑み、そして、常に希望を捨てず、充実した人生を歩まれることを祈っています。

これからの長いながい人生、それでも時間は有限です。が、その使い方、活かし方は無限です。PDCAを毎日の生活に生かし、無限の可能性にチャレンジしてください。「青年老い易く学成り難し。一寸の光陰軽んずべからず。」とは、ご存じ朱子学の朱熹の言葉ですが、関西外大ご出身の皆さんには、英語をはじめ、大事な言葉を大切に学び続け、ご自身の専門分野として自信が持てるように研鑽を続けていただきたいと思います。

「会う人みな我が師」とは、空海が『教王経開題』に既に述べている教えだそうですが、出会う生徒の一人ひとり、そのご家族の方々、職場の上司・諸姉・諸兄、そして、書物や映像も含め、人生でのたくさんの出会いには、なんと学びのチャンスが多いこと

でしょう。どんどん学び、吸収し、また、誠実に誇りと自信をもって発信し、生きがい
に溢れた人生を歩まれることを願っています。

「実るほど頭が下がる稲穂かな。」そして、一生をかけて、多くの出会いを喜び、お
おいに自分を伸ばし、成長をつづけ、充実と感謝で頭を下げられる、そんな、素敵で魅力
ある人物になることを、お互いにめざそうではありませんか！

英語では、”grit(≡growth mindset)”とか、“resilience”を使って、“Be a person
of the true grit.”とか、“Be resilient.”または、おなじみの”Never give up.”
となりますが、人生、やっぱり、「七転び八起き」ですね。いつも笑顔でね！最後まで読
んでいただき、ありがとうございます。お元気で！



れんじゆく

廉塾規約

英語キャリア学部 教授 村上 明子

広島県福山市神辺町に管茶山かなべ かんちやざん記念館がある。管茶山は江戸時代後期に漢詩人として名を
はせた人であるが、一方で私塾こしやうせきやうそんしや、黄葉夕陽村舎を設け、村の子どもたちの教育に尽力した。

この私塾は、後に福山藩の郷塾きやうじゆく (村の学校)となり、廉塾と呼ばれる。

廉塾に入る者には守らねばならない規則があった。「廉塾規約」である。例えば ——。

ひとつ 一 読書よみかきに倦うみ候そうろうとて、立ち騒すもうぎ相撲すもうどりにたされまじく候。

(読書に飽きたからといって、立ち騒いだり相撲をとったりしないこと。)

当時の子どもの様子が想像されて楽しい。だが、笑いながら読んでいると、最後のあたり
で泣かされてしまう。茶山は説く。教育を受けられる幸福は家族の配慮の上にある。無駄にする
な、と。大学生の2分の1が奨学生という現在、私にはこの言葉が響く。

卒業を迎えるあなた方も、家族の気持ちに支えられてきたことを忘れないでほしい。また、これ
から教える子どもたちも、そのような家族の思いの中にあることを忘れないでほしい。

茶山は「今日覚えた文字は、60年も70年も心に残り、役に立つことが少なからずある」と述べ
た。あなた方が教壇にたち、「60年も70年も心に残り、役に立つ」教えと学びを、これから力強く
実践していくことを心から願ってやまない。

卒業、おめでとう！

——☆学生人材バンク活動報告☆——

1、『小学校いきいきプログラム』

2月ですべての活動を終了しました。他のプログラムに比べると長い、1年間という期間は、学生にとってはどのような時間だったのでしょうか。児童を接することが初めてだったり、教職に関して学び始めたばかりの1回生だったり、“いきいき初心者”の学生がほとんどで、文字通り「手探り」、「試行錯誤」、「失敗の連続」状態でした。そんな状態をも乗り越える原動力、モチベーションとなったものは何だったのでしょうか。

その経験が今後どのように生きてくるのか、また、個人が今後どんな場面でどのように活かすことが出来るか、とても楽しみです。

外国語学部 英米語学科 2年生 多留 菜々花さん

私は一年間いきいき活動という小学生に英語を教える活動をしてきました。かなり大変で苦労をしたこともたくさんありますが、必ず将来に生きてくる経験だったと感じているので、少し書かせていただこうと思います。

伝えたいことはいくつかありますが、まず、私たちの目標だった「子どもたちに英語を楽しいと感じてもらいたい」を達成することについて、私は最もやりがいを感じ、最も大切にしたいと考えていました。はじめは子どもたちの様子もわからないし、どれくらい英語ができるのかもわからず手探りでしたが、回を増し、少しずつ子どもたちの様子が見えてきた時に、子どもたちの顔を思い浮かべながら活動をすることがとても楽しかったです。しかし、活動が始まって私達大学生の間でその目標は明確化されておらず、参加意欲にも大きな差があり、チーム全体で活動を考えられたとは、到底言えるような状態ではありませんでした。それどころか、出欠連絡ができない、期日が守れない、リハができない、チームで協力ができない等、様々な問題がありました。私はリーダーだったので、どう改善しようか何度も悩み、ミーティングの仕方を変えてみたりと工夫をしましたがなかなか効果は出てきませんでした。終盤に入りようやく、なんとなく「チーム」と呼んでもいいのかな？と思えるようになりました。はじめの頃は知らない人の集まりで、私たちの活動の拠点であるはずの学生作業室に来るメンバーは限られ、笑顔も雑談もほぼありませんでしたが、この頃になると、学生作業室にメンバーが集まる事が増え、雑談も交えながら笑顔で作業ができていました。はじめに書いた、子どもたちの様子が見えてきたのもこの頃でした。最後の活動を考える時には、活動の中身だけでなく、どんなアプローチの仕方が子どもたちの興味を惹きつけられるのか、集中力を高められるのか、も話し合う事ができました。学生作業室での会話の中に子ども達の名前がたくさん出てきました。その時間はとても有意義で楽しくて仕方ありませんでした。これからもっともっと良くしていけそうだと期待が膨らみましたが、今年度の活動はもうおしまいです。もういきいきなんて懲り懲りだと思った事もありましたが、今の私は来年度の活動が楽しみで仕方ありません。来年度、最後まで子ども達のために活動ができる

皆さんを待っています。決して楽な活動ではありません。しんどい事もたくさんありました。それは覚悟しておいて欲しいですが、必ず自分のためになります、成長できます。来年度、皆さんと活動できることを楽しみにしています。是非参加してください！

外国語学部 英米語学科 1年生 増田 慎也さん

いきいき活動を通して僕が感じたことをお伝えしたいと思います。よければ最後までお付き合いください。

いきいき活動に参加し小学生を相手に英語活動をして得たものはたくさんあります。1番重要だなと感じたことは、活動に入るまでにどれだけ興味関心を児童にもたすことができるかです。活動内容がどれだけ密度の高いものでも、児童に興味をもたれないと、集中力は続かないし、隣の人と話し出してしまったり、楽しんでくれないということを身をもって学びました。興味をもってくれた時は、すごい集中力で活動に取り組んでくれました。児童が活動で使用する英語に対し始めは難しいと感じていても、一生懸命理解しようと努力してくれました。目を輝かせ「わかった！」と笑顔で言われた時は、その笑顔のために自身の力の限りを尽くそうと誓いました。そのくらい心から嬉しく思いました。おそらくこれが、教師のやりがいの一つなんだろうと感じました。

しかし、このように言ってもらえるまでにすごく苦労しました。当日の進行がスムーズにいかない、学生の準備不足でうまくいかない、終わる時間を大幅に超えてしまう等、ここで出した例は一部ですが、改善点は多々ありました。改善点は活動日だけの話ではなく、むしろ活動日以外にもありました。僕が参加した当初は、いきいき活動に参加しているメンバーがお互いを同じチームだと認識していない状況、一緒にボランティアをしている顔見知り程度の関係だから、アドバイスや改善点など言いたいことも言えない、発案しにくい、ミーティングに出席しづらいということが起こっていました。チームとして信頼関係を構築するということの大切さを感じました。

今年度の活動最後の方は、チームワークが築けていたと思います。以前よりも、学生作業室でも雑談や笑顔がかなり増え、準備期間が楽しくなりました。今からもっと充実した活動ができるようになる！というところで今年度の活動が終わってしまったのは悔しいです。それに、今年度でいきいき活動を終える人もいるので、寂しく思います。今楽しく活動できているのは、温かい目で見てくれた3回生、2回生の先輩方、同級生がいたからだだと思います。とても感謝しています。いきいき活動の面倒を見てくださった教職教育センターの方には感謝しきれないくらいです。お世話になりました。

いきいき活動は、僕たち学生が「先生」になるわけではなく、英語を楽しく教えてくれるお兄さんお姉さんを目ざして活動を行なっています。「先生」ではないからこそ挑戦できることや、児童とのコミュニケーションの取り方など、難しい所ではありますが、いきいき活動の1番の魅力ではないかと思います。先生を目ざす上でこの活動はかなり貴重な経験ができると思います。

今年度の改善点は、来年度のいきいき活動に全て活かしたいと思っています。小学生に「英語が楽しい！」と笑顔で言ってもらえるように、そして僕たち、参加している学生も楽しいと感じるよう全力を尽くしていきたいと思っています。ぜひ興味のある方は来てください。ありがとうございます。

——★3月の教職課程ガイダンスについて★——

日程や開始時刻、場所などを教職教育センター前掲示板や外大メール、レポート、ポータルのお知らせにて確認してください。



——編集後記——

ご卒業おめでとうございます。今回、先生方から多数のご寄稿をいただきました。今号を保管していただき、10年後、読み返してみてもいいかもしれません。え、保管？いつか捨てちゃう……と、実際に読み返すかどうかは置いておいて、お伝えしたいのは、これらの文章は今だけでなく、今後も何度でも“活用”可能ということです。堅田先生の「人からしてもらって嬉しいと感じることをどうか実行してみてください。」とのお言葉に似たようなことを、小学生の頃に聞いたことはありませんか。どこにいても、死ぬ間際でも、この言葉はきっと意味を持ちます。卒業から何年も経った今でも、実行は難しく、今日またみなさんと同じように心に留めています。

みなさんの今後に幸多からんことを祈っています。